

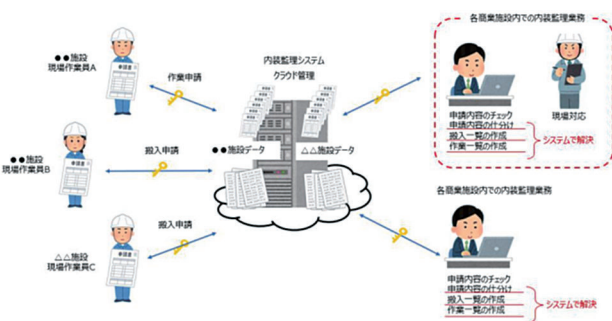
システムを使った業務効率化のイメージ（報道発表資料から）

# 内装情報を一元管理 各種申請書類デジタル化

スペース

商業施設などの企画・設計・施工を手掛けるスペースは、建設現場の内装監理業務を効率化する情報一元管理システム「内装監理システム」を開発した。建設現場の作業届や搬入届など、これまで紙で行っていた各種申請をデジタル化。申請内容をクラウドで一元管理し、関係者間で円滑に情報共有できる。内装監理業務をデジタル化し、生産性を

上と工事関係者の作業負担軽減、ペーパーレス化による環境負荷の低減を実現する。8日に堺市美原区で開業する「三井ショッピングセンターららぽーと堺」の内装施工に初適用した。内装監理業務でシステムを運用したところ、各種書類の整理にかかる時間が従来と比べて約7割削減できることを確認。ペーパーレス化も



大幅に進んだ。今後は商業施設を中心に20件の建設現

場で運用し、機能の改良を重ねる。システムは2023年以降の外販を予定。デベロッパーを中心にサービス提供を目指す。

システムは現場作業員がスマートフォンやパソコンで書類申請専用サイトに登録して使う。作業員はスマホなどから作業申請でき、申請状況をリアルタイムに確認できる。申請書類はクラウドで管理され、内装監理者はクラウドサービスを使って申請内容を確認する。システムには「お知らせ機能」があり、現場全体への連絡事項を確認できる。登録者同士がメッセージやファイルを共有でき、迅速な情報共有が可能になる。システムは商業施設の新

設だけでなく、開業後のテナント入れ替えなどにも適用できる。

内装監理は事業主体のデベロッパーの代行業務としてゼネコンやテナントとの間に入り、計画から開業ま

でテナント出店者の設計・施工を総合的に監理する。施工に必要な申請書類は多岐にわたり、それらを管理する内装監理業務では大量の紙を整理している。紙書類の申請から管理までの運用に手間や時間がかかっていた。

